



発行 岩手県立胆沢病院
編集 広報委員会

〒023-0864
岩手県奥州市水沢区
字龍ヶ馬場61
TEL 0197-24-4121
FAX 0197-24-8194

医療情報コーナーイベントの開催案内

※テーマ等、一部変更になる場合があります。

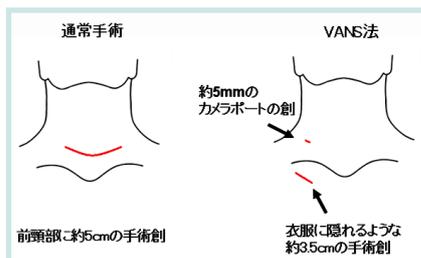
開催日	内容(テーマ)	担当スタッフ	開催形態
9月26日(火) 9:30~11:30	検査項目・見方についてご説明いたします	臨床検査技師	プチ勉強会
10月10日(火) 9:30~11:30	タオル帽子をつくろう	岩手ホスピスの会	実演、展示

- ・会場：玄関ホール「医療情報コーナー」
- ・申込み：不要
- ・費用：無料

甲状腺鏡視下手術について

良性腫瘍、バセドウ病に対する鏡視下手術(VANS法)を、当院でも行えるようになりました。

甲状腺の病気で手術の対象となるものは良性腫瘍、悪性腫瘍、バセドウ病が挙げられます。しかし、手術をすることで頸部に大きな傷が残ってしまうことが問題でした。特に良性腫瘍の場合や若い女性の場合には手術を躊躇するには十分な理由となってきました。その問題点に向き合う手術として甲状腺鏡視下手術が先進医療という形で1998年から行われてきました。この手術は安全かつ美容面でも優れていると評価され、昨年4月にようやく良性腫瘍、バセドウ病に対するの鏡視下手術が保険医療となりました(悪性腫瘍は適応外)。当院でも今年4月に施設認定を取得し甲状腺鏡視下手術を行うことができるようになりました。



当院で行うVANS法(Video assisted neck surgery)は、鎖骨の下から頸部へ向かい、皮膚を吊り上げて手術を行います。甲状腺をどの視点で見るとい違いはありますが、手術の流れはほぼ変わりません。そのため今までの手術と変わらない良い成績を収めています。また、頸部に傷が残らないことは、この上ない長所といえます。胆沢病院では東北地方でいち早くこの手術を導入しました。良性のしこりでも目立って気になる方、バセドウ病で手術が必要と言われたものの首に大きな傷が残るので手術したくないという方の悩みを解決する治療手段になる可能性があります。

年齢や性別は問いませんので、甲状腺にしこりをお持ちで鏡視下手術を希望される方は、胆沢病院外科の外来を受診してみてください。もちろん相談だけでも構いません。甲状腺外来は毎週火曜日となっておりますが、都合がつかない場合には他の曜日でも対応致します。

岩手県立胆沢病院外科 谷村 武宏



診療放射線科 活動紹介

放射線科医師 1名
診療放射線技師 17名
受付スタッフ 5名

業務内容

主な業務は、X線等を用いた画像診断で、病気の診断や治療に欠かせないX線撮影やMRI撮影、放射性同位元素を用いた核医学検査等です。胸部や骨のX線撮影のほかCTやMRIでは様々な臓器の断面を撮影したり、画像に写る造影剤を用いることで血管を立体的に映し出したり組織の状態を見ることができます。

そのほかには、心筋梗塞や脳卒中などの血管内手術や、X線や電子線の照射による放射線治療や放射性同位元素を用いた内用療法など、診断だけではなく様々な病気の治療にも携わっています。

Pick UP

放射線技術科は診断や治療をスムーズに行えるよう、様々な機器を使用し画像や動画を提供しています。夜間・休日も、当直体制により救急外来・入院の緊急患者に対応しています。主要装置として、CT装置・MRI装置・心カテDSA装置・RI装置・X線TV・一般撮影装置・マンモグラフィ撮影装置その他、放射線治療装置など（右写真）があります。

マンモグラフィ装置については、マンモ検診施設認定を取得しており撮影者もマンモ撮影認定技師資格取得者が担当をしています。その他CT専門認定技師・MRI専門認定技師・医用画像情報管理士がいます。

放射線治療についても、医学物理士・放射線治療品質管理士がおり放射線治療機器管理を行っています。

このようにスタッフ各々が専門性を活かし、質の高い医療を提供するために、日常業務に励んでいます。



血管造影装置

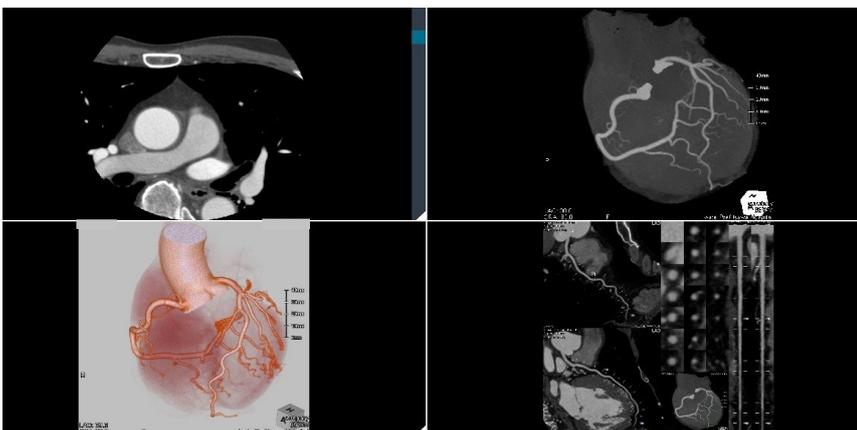


CT装置



放射線治療装置

下図はCT装置による実際の検査結果画像





水沢ざつつあか祭り

今年度第42回となる水沢ざつつあか祭り。今年も胆沢病院職員、一丸となって参加してきました。



部 署 紹 介

5 階 病 棟



千葉看護師長、佐々木看護師長補佐とスタッフのみなさん
(前列中央) (前列右から2人目)

看護師長 千葉 典子

5階病棟は整形外科・脳神経外科・皮膚科の3科を主にした急性期病棟です。整形外科では外傷性疾患や関節疾患・転倒などの骨折で手術

目的の患者さんが多く入院しています。脳神経外科においては脳出血救急患者さんを24時間受け入れ、脳血管治療を初め開頭手術・急性期リハビリテーションなど意識障害や麻痺、認知症を合併した患者さんの治療を行っています。また、皮膚科では熱傷や難治性褥瘡・感染性皮膚疾患患者さんなどが入院しています。

その中で、大腿骨頸部骨折地域医療連携クリニカルパスの活用や、退院支援カンファレンス・リハビリカンファレンスなどで地域・他職種連携を行い、ご本人やご家族の意向を尊重し、MSWとの協力で退院調整を行っています。

スタッフは若い看護師が多く、忙しいながらもお互いを尊重し信頼しながら「気配り・目配り・思いやり」の気持ちでチーム医療を実践しています。そして、患者さんやご家族の気持ちに寄り添った医療が提供できるようがんばっています。

(文責：看護師長補佐 佐々木 則人)

呼吸器内科

ごあんない

東北で5番目の導入！

～ 重症喘息患者に対して、気管支鏡を用いた新しい治療～

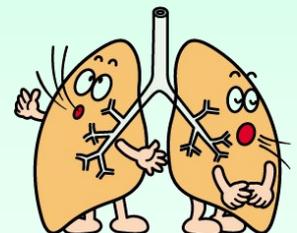
気管支サーモプラスチック 治療を開始しました

気管支喘息の治療は、吸入ステロイド薬を中心とした長期管理薬を使用することで、健常者と変わらない日常生活を送ることができることを目標としています。しかし喘息患者全体の5～10%程度は、複数の薬剤を使用しても喘息症状がコントロールできない重症喘息とされています。

そこで重症喘息患者に対して、気管支鏡を用いた新しい治療である「気管支サーモプラスチック」が2015年4月より保険適応となりました。気管支サーモプラスチックでは、気管支鏡に電極付きのカテーテルを挿入し、高周波電流にて気管支壁を温めることで、喘息症状の原因となる肥厚した気道平滑筋の量を減らすという、従来とは全く異なる治療法です。気管支全体を3回に分

けて治療することで、喘息発作の頻度や救急外来受診の回数が減ることが報告されています。

当院では2017年7月に1例目の治療を開始しました。気管支サーモプラスチックを行える施設は全国的にも限られており、東北の中では5番目の導入となりました。気管支サーモプラスチックは生涯に一回のみ行える治療であり、また適応にも条件があります。ご興味がある方や喘息治療に困っている患者さんがいらっしゃいましたら、呼吸器内科外来にご相談ください。



呼吸器内科医長 小野寺 克洋